

日中大学フォーラム2010. 1. 29

「変貌する日中の大学:グローバル大競争・連携時代を迎えて」



お茶の水女子大学
Ochanomizu University



大学の国際戦略 学生及び研究者交流の現状と課題

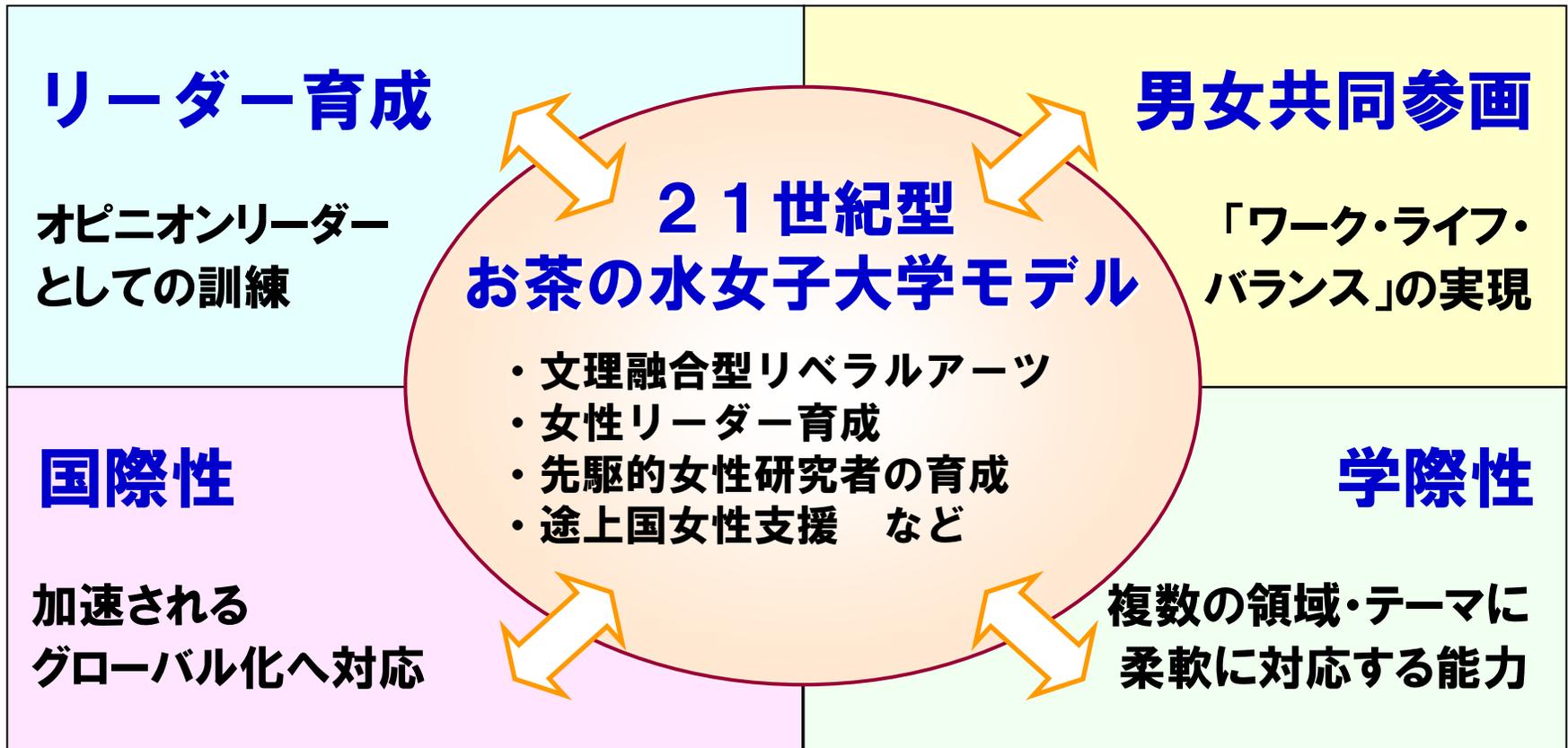
1

お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター長
森山 新

<http://jsl.li.ocha.ac.jp/morishin1003/>
moriyama.shin@ocha.ac.jp

本学の教育目標

国際社会を生きる女性リーダーの育成



女性リーダー育成の「モデル」を世界発信

本学の国際日本学教育・研究

▽「日本文化研究の
国際的情報伝達スキルの育成」
(大学院教育改革支援プログラム)

比較日本学教育研究センター

▽「〈対話と深化〉の
次世代女性リーダーの育成」
(「魅力ある大学院教育」イニシアティブ)

(1) 国際日本学シンポジウム

- 1999 第1回 新しい日本学の構築
アン・ウォルソール(カリフォルニア大学)ほか
- 2000 第2回 新しい日本学の構築Ⅱ
ジョン・グリーン(ロンドン大学)ほか
- 2001 第3回 新しい日本学の構築Ⅲ
何 瑞籐(台湾大学)ほか
- 2002 第4回 〈国際〉日本学との邂逅
カロリーナ・ネグリ(ヴェネツィア大学)ほか
- 2003 第5回 国際日本学の可能性
徐 一平(北京外国語大学)ほか
- 2004 第6回 比較日本学の試み
L・シュワルツ・アレナレス(お茶の水女子大学)ほか
- 2005 第7回 比較日本学の試みⅡ
M・シモン・及川(慶應義塾大学)ほか
- 2006 第8回 比較日本学研究の対話と深化
ニコラ・フィエヴェ(フランス国立科学研究所)ほか
- 2007 第9回 日本学研究の対話と深化Ⅱ
クリストフ・マルケ(フランス国立東洋言語文化研究所)
- 2008 第10回 人類・食・文化
フランソワーズ・サバン(日仏会館フランス学長)ほか
- 2009 第11回 日本近世港町の社会・文化構造／日仏交流
のなかのテキスタイル
オーレリー・サミュエル(ギメ美術館)ほか



(2) 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 共催のシンポジウム

- 2006・3・25 18～19世紀、江戸から東京へ
(仏・コレージュ・ド・フランス)
アニー・ルノンシア(パリ第七大学)ほか
- 2006・3・29 日本とフランス:交差する視線
(仏・ブレイズ・パスカル大学)
ローラン・ジャフロ(ブレイズ・パスカル大学)ほか
- 2006・11・23～11・26 日伊女性会議
(日本・イタリア文化会館)
G・デ・シモーネ(ジェノバ大学)ほか
- 2006・12・9 日本とフランス:交差する視線Ⅱ
(日本・お茶の水女子大学)
イヴ・シュワルツ(エクス・アン・プロヴァンス大学)ほか
- 2007・1・26 合理性への日本の視点
(仏・ブレイズ・パスカル大学)
高島元洋(お茶の水女子大学)ほか



(3) 海外提携大学との共同ゼミ

- 2005・2・6～2・11 グローバル時代の日本語教育
(韓国・同徳女子大学校)
- 2005・2・7～2・12 日本学共同ゼミ
(韓国・淑明女子大学校)
- 2006・9・11～9・16 グローバル時代の日本語教育
(中国・北京日本学センター)
- 2006・9・18～9・22 文学における日本的表象
(台湾・台湾大学)
- 2006・10・31～11・4 日本語日本文学コースとの交流プログラム
(米国・ヴァッサー大学)
- 2006・12・15～12・17 日本学における教育・研究の
国際協力の可能性について
(日本・お茶の水女子大学)
- 2007・1・5～1・9 歴史と文学の対話
(中国・北京外国語大学)
- 2007・1・17～1・20 研究の共通磁場としての日本学
(英国・ロンドン大学SOAS)



(4) 日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成 シンポジウム、共同ゼミ、教壇実習

- 2007・10・19～24 日中韓三カ国合同ジョイントゼミ
(中国・北京日本学研究中心)
- 2008・1・8 台湾大学との第2回ジョイントゼミ(TV会議)
- 2008・1・14～15 仏共同ゼミ「日本学の新たな構築の試み」
(仏・パリ・第7大学、コレージュ・ド・フランス)
- 2008・2・19～23 「台湾における日本学、日本における中国学」
(台湾・国立台湾大学)
- 2008・10・20～25 北京共同ゼミ「日本学研究—古典学の現在」
(中国・北京外国語大学・北京日本学研究中心)
- 2008・12・12～15 台湾共同ゼミ「日本の思想と文化」
(台湾・国立政治大学)



- 2009・1・8～14 仏共同ゼミ「日本学の新たな構築の試みⅡ」
(仏・パリ第7大学、フランス国立図書館)
- 2009・2・15～21 韓国教壇実習(日本語・日本史)
(韓国・同徳女子大学)
- 2009・3・15～22 英共同ゼミ「行き交うまなざし」
(英・ロンドン大学SOAS)
- 2009・7・18 日仏共同ゼミ・シンポジウム
(日本・お茶の水女子大学)
- 2009・8・19 USC共同ゼミ(同上)
- 2009・10・18～20 北京共同ゼミ「日本学研究」
(中国・北京日本学センター)
- 2009・11・1～5 台湾共同ゼミ「日中文化交流史」
(台湾・国立政治大学)
- 2009・11・15～22 ヴァッサー大学教壇実習
(米国・ヴァッサー大学)



ヴァッサー大学教壇実習(2009・11)



(5) 国際日本学コンソーシアム

2007・12・17～19 第2回国際日本学コンソーシアム

参加校：ロンドン大SOAS、国立台湾大、カレル大、淑明女子大、
同徳女子大、北京日本学研究中心、パデュー大
テーマ：日本学研究的の現在と未来—国際的・学際的なネットワークの
構築と活用



2008・12・15～17 第3回国際日本学コンソーシアム

参加校：ロンドン大SOAS、国立台湾大、カレル大、淑明女子大、
同徳女子大、北京日本学研究中心、パリ・デイドロ大、
ヴァッサー大
テーマ：～食・もてなし・家族～

2009・12・15～17 第4回国際日本学コンソーシアム

参加校：ロンドン大SOAS、国立台湾大、カレル大、淑明女子大、
同徳女子大、北京日本学研究中心、パデュー大学、
パリ・デイドロ大、ボン大
テーマ：日本学研究は誰のものか





0. はじめに 本日とりあげる事例

1. 国際日本学コンソーシアム 2006年度～

比較日本学教育研究センター
大学院:国際日本学領域



2. 多言語・多文化サイバーコンソーシアム(MMCC) 2009年度～

学部:グローバル文化学環





1. 国際日本学コンソーシアム

1.1 歴史

1999年:大学院に**国際日本学専攻**を設置

→国際的視野からの日本学を教育・研究

1999年～:**国際日本学シンポジウム**

2004年～:**比較日本学研究センター**設立

2005年～:**魅力ある大学院イニシアティブ**

2007年～:**大学院改革支援プログラム**

→世界各地で国際ジョイントゼミ・シンポジウムが開催

2006年～:**国際日本学コンソーシアム**

<目標>国際的視点から日本学研究を行う研究者育成





1. 国際日本学コンソーシアム

1.2 概要

- **歴史**: 2005年から世界各地で行われた国際共同ゼミを基盤に2006年から毎年本学で開催(4回)
- **参加大学**: ロンドン大SOAS(英国)、パリ・ディドロ大(フランス)、カレル大(チェコ)、台湾大(台湾)、北京日本学研究センター(中国)、淑明女子大(韓国)、同徳女子大(韓国)、パデュー大(アメリカ)、ヴァッサー大(アメリカ)、ボン大(ドイツ)、本学(日本)
- **5つの専門部会**:
日本語学、日本語教育学、
日本文学、日本思想、歴史学





1. 国際日本学コンソーシアム

1. 3 コンソーシアムがめざすもの

1. **国際性と学際性の追求**:「国際日本学」
2. **教育&研究**:グローバルなスキルを有する研究者養成
3. **双方向的**:多角的視点
4. **学生主導**:若手研究者育成



1. 国際日本学コンソーシアム

1.4 成果

1. **日本学の国際化**: 鎖国化・ゲッター化からの脱出
2. **日本学の学際化**: 共通テーマを求めることで日本学の各領域を有機的に結びつける
3. **対話と深化**: 本学と海外の日本学研究との対話と深化
4. **若手研究者の育成**: グローバル時代に求められる若手研究者育成のためのネットワークの構築





1. 国際日本学コンソーシアム

1.5 今後の課題

1. 継続: 予算確保の問題
2. 日常化の問題: サイバーコンソーシアムの可能性模索
 - ・ヴァッサー大、ボン大がTV会議で参加
3. 学際性と専門性の両立
4. 発展: ジョイントディグリーなどへの発展





2. MMCC (多言語多文化サイバーコンソーシアム)

2.1 概要

- **歴史**: 2007年に導入したTV会議システムを用い、国際共同授業・ゼミを展開
- **結成**: 2009年、世界の7大学が合同でMMCCを結成
- **参加大学**: ボン大(ドイツ)、ヴァッサー大(アメリカ)、釜山外大(韓国)、ワルシャワ大(ポーランド)、カレル大(チェコ)、チェンマイ大(タイ)、本学(日本)
- **テーマ「ステレオタイプと実際」**: 7大学がそれぞれの国の人、社会、文化に対し持っている知識とイメージについてアンケートを実施、そこに現れたステレオタイプについて、実状を調査し発表や討論を行う



お茶大



ヴァッサー大

국제신문

2007년 04월 27일 008면

부산외대-日 오차노미즈조시대학 화상강의

일본 교수·학생과 실시간 토론

“유학온 듯 생생해요”

격주 2시간씩 시범강의... 2학기엔 확대 실시



26일 부산외국어대 본관 화상강의실에서 이 대학 일본어전공 학생들과 일본 도쿄 국립 오차노미즈조시대학 학생들이 실시간 화상방식으로 공동 강의를 듣고 있다. 김동하 기자kimdh@kookje.co.kr

“안녕하세요. 일본은 지금 천둥 번개가 치고 있어 강의에 빠진 학생들이 있는데 한국은 괜찮은가요.”

26일 부산외국어대 본관 화상 강의실. 일본 국립 오차노미즈조시대학 모리야마신 교수는 도쿄에서 한국인 학생들에게 인사를 했다. 부산외대 학생들은 화면을 통해 일본 교수의 모습을 보며 “날씨가 화창하다”고 답했다.

부산외대와 오차노미즈조시대학은 이날부터 실시간 공동 화상강의에 들어갔다. 일본이 강의 때 양국 학생들이 얼굴을 마주 보며 수업하는 것이다. 이 공동 화상강의에는 부산외대 일본어대학 학부생 15명과 오차노미즈조시대학 일본어교육과 학생 50명이 참여했다.

그동안 일부 대학에서 국가 간 화상강의를 마련했지만 실시간으로 화상강의를 본격 실시하기는 이번이 처음이다. 부산외대 등의 이번 실시간 화상강의는 인터넷 방식이 아닌 자체 코덱을 통해 화상을 전송, 화상의 끊김을 방지하고 화질도 최대한 높여 생생한 수업 분위기를 연출할 수 있다. 이날 첫 강의는 부산외대 일본어대학 정

기영 학장이 ‘한국 일본어 학습자의 학습동기와 일본문화 이해 과제’로, 일본 측 모리야마신 교수는 ‘인지언어학을 응용한 일본어교육’에 대한 주제로 진행했다. 양국 학생들은 교수들의 강의를 들은 뒤 즉석에서 일본어 학습법, 한국에서의 일본어 교육 현황 등에 대해 토론하고 다양한 질문을 쏟아내기도 했다.

부산외대와 오차노미즈조시대학은 이번 1학기 동안 격주로 목요일마다 2시간씩 시범 강의를 한 뒤 올 2학기부터 학부생과 대학원생을 대상으로 ‘화상강의’의 시간을 편성하기로 했다. 이날 강의에 참여한 최강찬 씨는 “일본어를 전공하면서 평소 궁금한 점이 많았는데 일본 교수님께 실시간으로 여쭙볼 수 있어 많은 도움이 됐다”고 말했다.

국가 간 실시간 화상강의는 전공 과목과 관련된 해외 학문의 흐름을 있는 그대로 파악할 수 있다는 점에서 지역 교육계가 많은 관심을 보이고 있다. 부산대 기계공학부 대학원은 미국 메릴랜드대학교, 한국과학영재학교는 대만과학영재학교와 실시간 화상 강의를 하기로 결정, 최근 이를 위한 시스템을 구축했다. 이은정 기자 eilee@kookje.co.kr

国際新聞

2007.4.27

釜山外大—お茶の水女子大の仮想討論
日本の教授・学生とリアルタイムで討論
「留学してみたいにリアル!!」

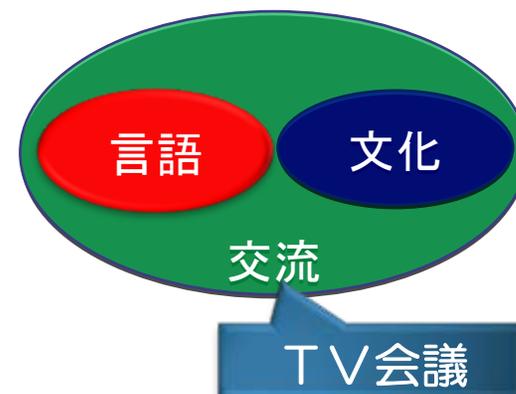
釜山外大



2. MMCC

2.2 目標

- **グローバル時代に求められる外国語教育の在り方を模索する**
 1. **総合的教育**: 文化を取り入れた総合的言語教育
 2. **多文化教育**: 文化リテラシーの育成
 3. **多言語教育**: コミュニケーション能力、アカデミックプレゼンテーション能力、ディスカッション能力の育成
 4. **ユビキタス**: TV会議などのIT利用によりグローバルな環境の日常化





2. MMCC

2.3 成果

1. **総合的教育**:文化を取り入れた総合的言語教授法の確立
2. **多文化教育**:多文化理解環境の造成
3. **多言語教育**:多言語同時使用環境の造成
4. **ユビキタス**:IT教育のための教授法の確立
5. 他の言語と文化に対する関心、動機づけが高まる
6. 知識中心からディスカッション中心へ
7. ホーム&ホーム
8. 多角的視点(7つの視点→日本中心にならない、2国間の感情対立が生まれにくい)





2. MMCC

2.4 今後の課題

1. TV会議システム:使用できる大学が限られている
2. 時差の問題
3. カリキュラムの問題
 - ・既存のカリキュラムとの調整
 - ・互恵的テーマの模索
 - ・初級からの実現可能性



★大学院教育への拡大

- ・釜山外大・台湾大との共同ゼミを既に実施
- ・日本研究共同コロッキア(ボン大学&本学)
- ・修士論文共同プログラム(ワルシャワ大&本学)

MMCCの公式サイト

[HTTP://GLOBALNETWORK2009.BLOGSPOT.COM/](http://GLOBALNETWORK2009.BLOGSPOT.COM/)

Multilingual & Multicultural Cyber Consortium (MMCC)

私たちは世界の日本語教室がネットワークを結び、互いの文化を理解し合いながら、グローバル時代にふさわしい多言語・多文化リテラシーを身につけようと考えています。

📅 2009/12/20

ボン大学とTV会議による合同授業を行いました

12月18日(金)日本時間17:00(ドイツ時間9:00)より、TV会議システムを用いた合同授業が行われました。この日はパワーポイントにまとめたドイツ側の4つの発表を聞き、討論するという形で行われました。扱われたテーマは、以下の4つでした。



- 1)ビールとソーセージの国?(ラース、ピンペン、コーネリア)
- 2)ドイツ人の性格(パウル、ラウラ、フロリアン、ティム)
- 3)生真面目なドイツ人(シド、ザブリナ)
- 4)ドイツのサービス(クリス、見子)

ドイツ側は朝9時、日本側は夕方5時からという条件の中にも関わらず、大勢の学生が集まり、それぞれの国に対するステレオタイプは実際にそのとおりなのかにつ

📁 アーカイブ

▼ 2009 (18)

▼ 12月 (2)

[ボン大学とTV会議による合同授業を行いました](#)

[釜山外大とTV会議合同授業を実施しました](#)

▶ 11月 (2)

▶ 10月 (1)

▶ 9月 (2)

▶ 8月 (2)

▶ 7月 (1)

▶ 6月 (4)

▶ 5月 (4)

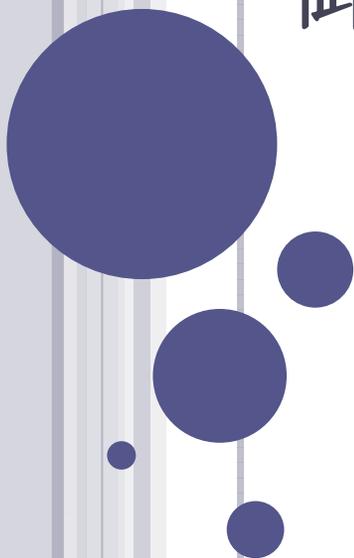
📍 参加大学

参考文献／サイト

- 森山新(2004)「国際日本学との連携による総合的日本語教育の可能性」『第5回国際日本学シンポジウム報告書』29-31, お茶の水女子大学
- 森山新(2005)「文化を取り入れた総合的日本語教育をユビキタスに提供するIT利用について」『研究年報』1: 121-132, 比較日本学研究センター
- 森山新(2007)「グローバル時代に求められる総合的日本語教育と認知言語学」『研究年報』3:111-117, お茶の水女子大学比較日本学研究センター
- 森山新(2009a)「文化を取り入れた総合的日本語教育のための新たなとりくみ:国際交流型授業国際と遠隔協働授」『平成20年度大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的伝達スキルの育成」平成20年度活動報告書(学内教育事業編)』
- 森山新(2009b)「教授法研究の活性化のために:認知言語学からの提言」『月刊日本語』, 2009年9月号, 66-69, アルク
- 森山新(2009c)「認知言語学と第二言語としての日本語教授法」『国際シンポジウム「認知言語学の拓く日本語・日本語教育の研究と展望」予稿集』33-36, 北京大学
- 森山新(2010)「**Holistic Education of Japanese Language in the Global Era**」『研究年報』6(3月刊), 比較日本学教育研究センター

「多文化・多言語サイバーコンソーシアム」<http://globalnetwork2009.blogspot.com/>

御清聴ありがとうございました



伝統遊戯がテーマのマンガ

将棋(しょうぎ)



羽海野(うみの)チカ『3月のライオン』

囲碁(いご)



ほったゆみ『ヒカルの碁』